



vol.204

19歳

19歳の酒プロジェクト

19歳の若者が自らの手で田植え、稲刈り、酒造りを行う。そして20歳を迎え、自分たちの作った日本酒で乾杯する。そんな1年がかりの体験ができるのが、今年で第3期目となる「19歳の酒プロジェクト」だ。5月25日には滋賀県東近江市で田植えが行われ、プロジェクトに参加する19歳たちが汗を流した。

自作の酒で乾杯 日本酒の良さ学ぶ

サークルの飲み会などで安い日本酒を飲まされ、日本酒に対して悪い印象を持っていた。今の若者もそうだと思う」と角本さん。19歳のときに酒造りを体験し、自分たちで作った思い入れのあるお酒で乾杯すれば、印象は良くなるはずだ。

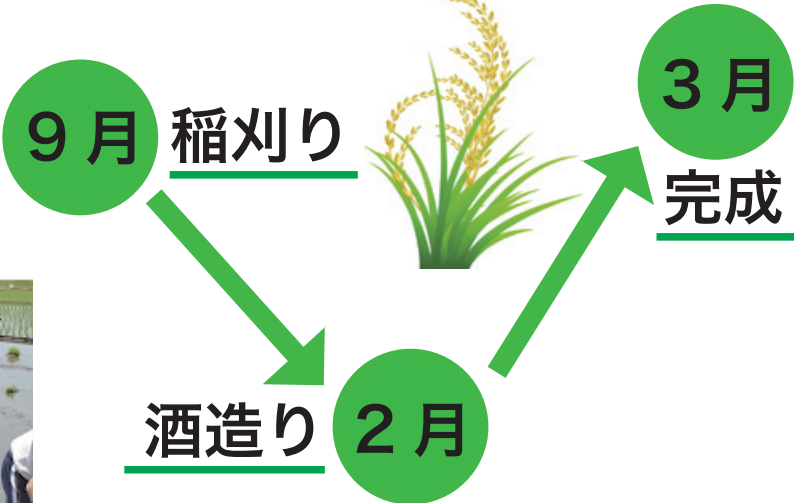
とがない参加者も多く、田植えを終えると「こんなにしんどいと思わなかった」と声をそろえる。苦労を重ねて作った酒で、仲間たちと20歳を祝う。これが19歳の酒プロジェクトの魅力だ。

5月 田植え



7月 かかし作り

19歳の酒プロジェクトを始めたきっかけを「日本酒のイメージを改善したかったから」と話すのは「かどや酒屋」(大阪府茨木市)の角本稔さんだ。二日酔いしやすいといった日本酒へのマイナスイメージを払拭するために、かどや酒屋を含む茨木市の酒屋2店舗、高槻市の酒屋1店舗の3店舗が酒屋にできることを話し合った。その際、過去に一度同様の企画が行われていたことを知ったという。自分たちでもできるかもしれないと考え、プロジェクトを始めた。「自分が大学生のころは、



プロジェクトは1年を通して行われる。5月に田植えを行い、7月下旬から8月上旬には田んぼに設置するかかしを作る。9月下旬に稲刈りをし、2月に酒造り。そして3月には出来上がった酒の瓶詰め、ラベル貼りをし、最後に乾杯。自分たちの作った酒を味わう。プロジェクトに参加する19歳はほとんどが大学生で、今期は同志社大や追手門学院大で飲酒文化の講義を受講している学生や、関西大の日本酒同好会のメンバーなどが参加している。田植えや稲刈りを一度も経験したこ

プロジェクトを通して伝えたいのは、「日本酒の良さ」。そのために、今後もできる限りプロジェクトは続けていくという。「お酒は適量であれば体に良いし、人と人の距離を縮めてくれるとても良いもの」と角本さん。「今は日本酒サークルなど、お酒の良さやアルコールの怖さを理解している学生もいる。そういう若者が、ほかの若者にお酒について発信していくのをサポートしていきたい」。若者に「日本酒の良さ」が広まることに期待を込める。 【聞き手=根原直希】

(写真提供=角本稔さん)

UNN 関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>
 ■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F
 (TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUS は
 神戸大学ニューズネット委員会
 同志社大学 PRESS 編集部
 NEWS 立命館通信社
 関学新月通信社
 阪大 POST 通信社

関西大学タイムス編集部
 神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
 京都女子大学藤花通信編集部
 京都大学 CLOCK 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです